

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-132511

(43) 公開日 平成9年(1997)5月20日

(51) Int.Cl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K	7/00		A 6 1 K 7/00	C N
	7/025		7/025	
	7/027		7/027	
	7/48		7/48	

審査請求 未請求 請求項の数1 F D (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願平8-307516	(71) 出願人	591010376 バイヤースドルフ・アクチエンゲゼルシャ フト BEIERSDORF AKTIENGE SELLSCHAFT ドイツ連邦共和国デー-2000ハンブルク 20・ウンナシュトラーセ48
(22) 出願日	平成8年(1996)11月5日	(72) 発明者	ウタ・マイリング ドイツ・デー-20251ハンブルク・クルシ ユマンシュトラーセ18
(31) 優先権主張番号	1 9 5 4 1 9 6 8 . 5	(74) 代理人	弁理士 小田島 平吉
(32) 優先日	1995年11月10日		
(33) 優先権主張国	ドイツ (DE)		

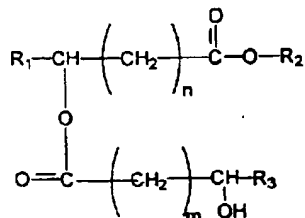
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 安定で、炭化水素を含有しない、化粧品又は皮膚科学的オレオゲル及びW/Oエマルション

(57) 【要約】 (修正有) れのための使用。

【課題】 皮膚に対して低刺激性の化粧品の提供。

【解決手段】 本質的に飽和炭化水素類を含有せずそして (a) $C_{18}-C_{16}$ 一塩基性脂肪酸の、少なくとも1種類のグリセロールモノー、ジー及び／又はトリカルボン酸エステル並びに少なくとも1種類の、下記の構造式



〔式中、 R_1 及び R_3 は C_3-C_{30} 飽和炭化水素基、 R_2 は C_5-C_{50} 飽和炭化水素基であり、 n 及び m は 5～25 の値をとる〕をもつ物質類からなる群から選ばれるエステルを含んでなる脂質相並びに、(d) 更に、適切な場合には水、更に脂質類、乳化剤類及び通常のその他の活性化合物類、補助剤類及び／又は添加剤類を含んでなる化粧品調製物並びにこれらの調製物の、口唇の手入

【特許請求の範囲】

【請求項1】 本質的に飽和炭化水素類を含有せずそして(a) 18-36個の炭素原子をもつ、分枝及び／又は非分枝の一塩基性脂肪酸類の、少なくとも1種類のグリセロールモノー、ジー及び／又はトリカルボン酸エステル(=モノー、ジー及び／又はトリグリセリド類)並びに少なくとも1種類の、ヒドロキシカルボン酸と、15-49個の炭素原子をもつ、分枝又は非分枝飽和アルコールとのエステルを含んでなる脂質相、並びに(d)更に、適切な場合には水、更に脂質類、乳化剤類及び通常のその他の活性化合物類、補助剤類及び／又は添加剤類を含んでなる化粧品調製物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はオレオゲル及びW/Oエマルションの形態にある、安定で、炭化水素を含有しない、化粧品又は皮膚科学的調製物類に関する。本発明は特に、口唇の手入れを目的にした調製物に関する。

【0002】

【従来の技術】美容的皮膚の手入れとは主として、環境の影響(例えば汚れ、化学物質類、微生物類)に対する、及び内因性物質類(例えば水、天然の脂肪類、電解質類)の喪失に対する障壁としての皮膚の生来の機能の増強又は再構成として理解することができる。

【0003】この機能が損傷されると、毒性又はアレルギー性物質類の吸収の増加、あるいは微生物類による攻撃及びその結果としての毒性又はアレルギー性の皮膚反応が誘起される可能性がある。

【0004】更に皮膚の手入れの目的は日常の洗浄によりもたらされる、皮膚からの脂肪及び水の喪失を補填することである。このことは、生来の再生能力が適切でない場合には特に重要である。皮膚の手入れ用の製品類は更に、環境の影響、特に日光及び風に対して防御し、そして皮膚の老化を遅らせねばならない。

【0005】概括的に、医薬用局所用組成物類は活性濃度の1種類以上の医薬品類を含んでなる。簡略化のために、化粧品としての、そして医薬用の使用及びそれに対応する製品類を明確に区別するために、ドイツ連邦共和国の法律条項(例えば、化粧品法、食品及び医薬調製物類法)が参照される。

【0006】特に口唇の皮膚は単に非常に薄い角質層を有するのみである。口唇上には汗腺が全く存在せず、そして点在する皮脂腺のみが認められる。従って口唇の皮膚には実質的には脂肪が存在せず、特に寒冷で乾燥した気候時には乾燥し易い。この場合にはその皮膚に小さい割れ目が形成される可能性があり、そして化学的、物理的及び微生物による作用(例えば食品類、日光、帯状疱疹ウイルス類)に対する口唇の感受性が増加する。

【0007】このことを予防することが、通常口唇手入れ用スティック類の形態で入手することができる、口唇

手入れ用調製物類の役目である。これらの製品類は通常、使用後に口唇上に被覆層を形成する、大量のワックス類及び脂肪成分類を含んでなる。流体又は半固体状の調製物類、例えば口唇手入れ用ゲル又はクリームはあまり一般的ではないが、まれではない。

【0008】口唇の真皮は、口唇表面の直下に広がる、循環の良い乳頭を有する。従って口唇はその色が赤みを帯び、そして問題の人物の顔色に応じて、多かれ少なかれ、顔面のその他の皮膚の色から浮き立っている。装飾的化粧品類の一つの装飾方法はまた、適切な化粧品類により、人物のタイプに口唇の色をマッチさせることである。

【0009】このタイプの製品類は、例えば、それらの中に種々の着色された顔料類を取り込むことができる、装飾的口紅類である。これらのスティックはまた、使用後に口唇上に被覆脂肪層を形成する、大量のワックス類及び脂肪成分類を含んでなる。

【0010】しかし、一方でこの層の役目は口唇の皮膚を乾燥から防護することではない。ここではその脂質層は取り込まれた顔料物質類を口唇へ接着させる基材として役立つ；顔料類自体は種々の理由により、これらの基材なしには口唇に使用することができない。

【0011】本発明の一つの目的は、手入れ作用が強く、取り扱いが容易であることに特徴付けられ、そして更に化粧品としてエレガントな調製物となるような口唇手入れ用の調製物を開発することであった。

【0012】ゲルは最近非常に流行してきた一般的な化粧品及び皮膚科学的調製物形態である。ゲルは半固体の、しばしば注入可能なコンシステンシーにより特徴付けられる。ゲルは通常、透明又は半透明であり、そして時々は澄明ですらある。そのゲル構造は、それらに対して外部の油性又は水性相の分子が静電気による相互反応により緩く結合されている、内部の三次元的分子マトリックスによりもたらされる。本質的に、実際的には無水のオレオゲル、実際的には脂肪を含有しないヒドロゲル類及び根本的にO/W又はW/Oエマルション類を基礎にし、しかし更にゲル構造の特徴をも達成する油性／水性ゲル類：の間は区別される。

【0013】これまでの当該技術分野での一般的な基礎物質類はパラフィン油類又はパラフィンワックス類であり、それらは、パラフィン含有のレシピ、エマルション又はオレオゲルは温度の変化に対して特に不安定ではないかあるいは少なくとも簡単な方法で安定化させることができるという利点をもつ。パラフィン類は種々の鎖長をもつ分枝及び非分枝の飽和炭化水素類を含んでなる。

【0014】パラフィン油類及びパラフィンワックス類を除外することは好都合の可能性もある。例えば、鉱物性脂質成分類と対照的に、それらのCO₂バランスが中性の(又は少なくとも実質的に中性の)原料物質類を基礎にした、主として再生可能な材料又は物質の使用は缺

迎できる。

【0015】通常のタイプの調製物の範囲をパラフィンを含むしない調製物まで広げることまた望ましいことであつた。

【0016】技術用語においては、ほとんどすべての口紅類は、口紅の基材を表す、固体もしくは半固体のワックス類及び流体の油類、高度に精製されたパラフィン油類及びワックス類、の無水脂肪混合物類である。

【0017】必要条件の理想像により、口紅を滑らかにそして大きな摩擦抵抗なく使用することができねばならない。更に口紅は単に穏やかな圧力下でも、しみになったり、薄れたりみすぼらしくなつてはならず、しかし口唇上に脂肪のしっかりと接着した薄膜を形成せねばならない。次に口唇は脂肪のこの薄膜により滑らかでしなやかにされねばならない。

【0018】口紅は更にまた、破壊に抵抗性をもち、熱抵抗性をもちそして油を放出してはならないという必要条件を満たさねばならない。

【0019】これまでの当該技術分野で常用されている基礎物質類は、

- (1) 流体の油類 (例えばパラフィン油類、ヒマシ油、ミリスチン酸イソプロピル)
 - (2) 半固体成分 (例えばワセリン、ラノリン)
 - (3) 固体成分 (例えば蜜蝋、セレシン及び微小結晶性ワックス類又はオゾケライト)
 - (4) 融点の高いワックス類 (例えばカルナバ蠟、カンデリラ蠟)
- である。

【0020】パラフィン類及び蜜蝋を含むこれまでの当該技術分野の口紅類は、“Kosmetik, Entwicklung Herstellung und Anwendung kosmetischer Mittel”, page 105, editor: W. Umbach, Georg Thieme Verlag, Stuttgart-New York, 1988中に記載されている。

しかしこれまでの当該技術は多数の欠点を有する。従つて西独特許第23 35 549号明細書はW/Oエマルジョンを基礎にした化粧品スティックの製法を公表している。この説によると、ポリヒドロキシ化合物及び非イオン性の界面活性化合物からゲルが製造され、このゲルを化粧品基材と混合させそして次いで水分含量を該混合物中に乳化させる。

【0021】しかし、化粧品スティックに課せられる普遍的必要条件をもつスティック類はこの方法によつては製造することができない。

【0022】その他の欠点は、最近の時点まで、パラフィン油類及びワックス類は口紅類にとって不可欠の成分であつたことである。これらは大量入手ができる原料類であり、使用可能な性状をもつスティックをそれらの補助により調製することが出来るが、これらの化粧品スティックの使用性は限定されている。更に、パラフィン類は、地球上におけるそれらの存在が限定されている、貴

重な基礎物質類である。化粧品分野における最近の製造は、再生可能な原料物質、すなわち例えば植物性ワックス類又は油類の方向に進展している。

【0023】

【発明が解決しようとする課題】しかし今日まで、既知の植物性ワックス類、脂肪類もしくは油類又は化学的に変性させた植物性ワックス類、脂肪類もしくは油類を基礎にした化粧品スティックを企画することは不可能であつた。従つて本発明のもう一つの目的は、鉱物油類を含むせずその代わりに植物性の又は、適当な場合には動物性の脂質成分又はそれらの化学変性誘導体をベースにすることができる化粧品スティック、特に口唇用スティックの基材を提供することであつた。

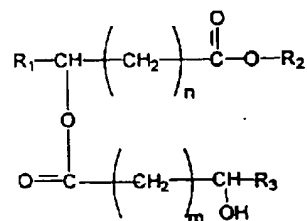
【0024】従つて全体として、本発明の目的は、この点に関するこれまでの当該技術の欠点を是正する調製物類を開発することであつた。

【0025】

【課題を解決するための手段】驚くべきことに、そしてすべてのこれらの目的の達成はその点にあるが、本質的に飽和炭化水素を含むせずそして、(a) 少なくとも1種類の、18-36個の炭素原子をもつ分枝及び/又は非分枝の一塩基性脂肪酸類の、グリセロールモノー、ジー及び/又はトリカルボン酸エステル (=モノー、ジー及び/又はトリグリセリド類) 並びに少なくとも1種類の、下記の構造

【0026】

【化1】



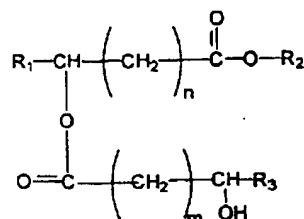
【0027】式中、 R_1 及び R_3 は互いに独立して、3-30個の炭素原子をもつ分枝もしくは非分枝飽和炭化水素基であり、 R_2 は5-50個の炭素原子をもつ分枝もしくは非分枝の飽和炭化水素基であり、そして n 及び m は互いに独立して5から25の値をとるをもつ物質類からなる群から選ばれるエステルを含んでなる脂質相並びに、(d) 更に、適当な場合には、水、更に脂質類、乳化剤類及び通常その他の活性化合物類、補助剤類及び/又は添加剤類を含んでなる化粧品調製物が、これまでの当該技術の欠点を是正する。

【0028】本発明の具体的な態様は、本質的に飽和炭化水素を含むせずそして、(a) 少なくとも1種類の、18-36個の炭素原子をもつ分枝及び/又は非分枝の一塩基性脂肪酸類の、グリセロールモノー、ジー及び/又はトリカルボン酸エステル (=モノー、ジー及び/又はトリグリセリド類) 並びに少なくとも1種類の、

下記の構造

【0029】

【化2】



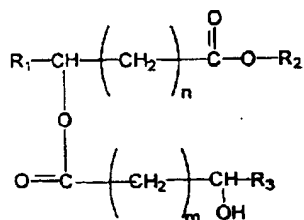
【0030】式中、 R_1 及び R_3 は互いに独立して、3-30個の炭素原子をもつ分枝もしくは非分枝飽和炭化水素基であり、 R_2 は5-50個の炭素原子をもつ分枝もしくは非分枝の飽和炭化水素基であり、そして n 及び m は互いに独立して5から25の値をとるをもつ物質からなる群から選ばれるエステルを含んでなる脂質相並びに、(d) 更に、適当な場合には、水、更に脂質類、乳化剤類及び通常のその他の活性化合物類、補助剤類及び／又は添加剤類を含んでなる化粧品調製物の、口唇の手入れ用調製物としての使用である。

【0031】本発明による調製物は、好都合には、本質的に無水形態か又はW/Oエマルジョンである、オレオゲルの形態にすることができる。それらは高度な、熱に対する安定性、優れた接着性及び非常に良好な使い易さにより特徴付けられる。本発明による調製物を化粧品スティックの形態に開発することはまた可能であり好都合である。

【0032】モノー、ジー及び／又はトリグリセリドもしくはトリグリセリド類は本発明によると、好都合には、該調製物の総重量を基礎にして0.5-10重量%の含量で存在する。下記の構造

【0033】

【化3】

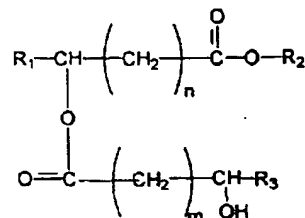


【0034】をもつ物質の群から選ばれるエステルもしくはエステル類は、好都合には、該調製物の総重量を基礎にして、15-25重量%の含量で存在する。

【0035】好ましい脂質成分は、モノー、ジー及びトリグリセリド類並びに下記の構造

【0036】

【化4】



【0037】式中、 R_1 及び R_3 は互いに独立して、5-10個の炭素原子をもつ分枝もしくは非分枝の飽和炭化水素基であり、 R_2 は5-50個の炭素原子をもつ分枝もしくは非分枝の飽和炭化水素基であり、そして n 及び m は互いに独立して5から15の値を採るをもつ物質からなる群から選ばれるエステル類からなる群から選ばれる。

【0038】好ましいエステル類はステアリン酸 C_{19-39} -アルキルヒドロキシステアロイル類である。

【0039】本発明の特徴は、該脂質層がそれぞれ該調製物の総重量を基礎にして、10-90重量%、好ましくは50-70重量%までの流体脂質類を、0.5-90重量%、好ましくは5-30重量%までの半固体脂質類を、そして0.5-50重量%、好ましくは25-40重量%までの固体脂質類を含んでなる場合に好都合に実現される。

【0040】本発明による調製物をW/Oエマルジョンとして開発することが望ましい場合には、その含水量は好都合には、それぞれ該調製物の総重量を基礎にして、0.1-15重量%、好ましくは3-5重量%にすることができる。

【0041】下記の物質を、場合により使用され得るがしかし本発明により好都合なW/O乳化剤類として使用することができる：8から24個の、特に12-18個のC原子の鎖長をもつ飽和及び／又は不飽和の、分枝及び／又は非分枝アルカンカルボン酸のモノグリセロールエステル類、8から24個の、特に12-18個のC原子の鎖長をもつ飽和及び／又は不飽和の、分枝及び／又は非分枝アルカンカルボン酸のジグリセロールエステル類、8から24個の、特に12-18個のC原子の鎖長をもつ飽和及び／又は不飽和の、分枝及び／又は非分枝アルコールのモノグリセロールエーテル類、8から24個の、特に12-18個のC原子の鎖長をもつ飽和及び／又は不飽和の、分枝及び／又は非分枝アルコールのジグリセロールエーテル類、8から24個の、特に12-18個のC原子の鎖長をもつ飽和及び／又は不飽和の、分枝及び／又は非分枝アルコールのトリグリセロールエーテル類、8から24個の、特に12-18個のC原子の鎖長をもつ飽和及び／又は不飽和の、分枝及び／又は非分枝アルカンカルボン酸のプロピレングリ

コールエステル類並びに8から24個の、特に12-18個のC原子の鎖長をもつ飽和及び／又は不飽和の、分枝及び／又は非分枝アルカンカルボン酸のソルビタンエステル類。

【0042】特に好都合なW/O乳化剤は、モノステアリン酸グリセリル、モノイソステアリン酸グリセリル、モノミリスチン酸グリセリル、モノオレイン酸グリセリル、モノステアリン酸ジグリセリル、モノイソステアリン酸ジグリセリル、2-ポリヒドロキシステアリン酸ポリグリセリル、モノステアリン酸プロピレングリコール、モノイソステアリン酸プロピレングリコール、モノカプリル酸プロピレングリコール、モノラウリン酸プロピレングリコール、モノイソステアリン酸ソルビタン、モノラウリン酸ソルビタン、モノカプリル酸ソルビタン、モノイソオレイン酸ソルビタン、ジステアリン酸スクロース、ベヘニルアルコール、イソベヘニルアルコール、セラキルアルコール及びキミルアルコールである。

【0043】本発明が特に化粧品スティック類において実現される場合には、その他の成分として、蜜蝋及び／又は、14-44個の炭素原子をもつ飽和分枝もしくは非分枝脂肪酸カルボン酸と、14-44個の炭素原子をもつ飽和分枝もしくは非分枝脂肪酸アルコールとのエステル類を使用することが好都合である可能性がある。

【0044】適当な場合には、本発明による調製物の水性相は好都合には、それぞれ個別に使用されても、又は相互の希望の組み合わせ物中でも、低C数のアルコール類、ジオール類又はポリオール類及びそれらのエーテル類、好ましくはエタノール、イソプロパノール、プロピレングリコール、グリセロール、エチレングリコール、エチレングリコールモノエチルもしくはモノブチルエーテル、プロピレングリコールモノメチル、モノエチルもしくはモノブチルエーテル、ジエチレングリコールモノメチルもしくはモノエチルエーテル及び類似の物質、並びに更に低C数のアルコール類、例えばエタノール、イソプロパノール、1, 2-プロパンジオール又はグリセロール、並びに特に、二酸化シリコン、ケイ酸アルミニウム類、多糖類及びそれらの誘導体類、例えばヒアルロン酸、キサンタンゴム及びヒドロキシプロピルメチルセルロースからなる群から、特に好都合には、ポリアクリル酸エステル類、好ましくは、いわゆるカーボポール類、例えば980、981、1382、2984もしくは5984タイプのカーボポール類、あるいはまた、ETD [分散の容易な (easy-to-disperse)] タイプの2001、2020及び2050からなる群からの1種類のポリアクリル酸エステルからなる群から好都合に選ぶことができる、1種類以上の増粘剤類、を含んでなる。

【0045】特に好都合な調製物は更に、添加剤類又は活性化化合物類として抗酸化剤類を使用する場合に得られる。本発明によると、該調製物は好都合には、1種類以上の抗酸化剤類を含んでなる。美容的及び／又は皮膚科

学的用途に適切で一般的なすべての抗酸化剤類を、好ましく、しかし場合によって使用することができる抗酸化剤類として使用することができる。

【0046】該抗酸化剤類は好都合には、非常に少量の耐用量 (例えばpmolから $\mu\text{mol/kg}$) の、アミノ酸類 (例えばグリシン、ヒスチジン、チロシン及びトリプトファン) 及びそれらの誘導体類、イミダゾール類 (例えばウロカニン酸) 及びそれらの誘導体類、D、L-カルノシン、D-カルノシン、L-カルノシン及びそれらの誘導体類 (例えばアンセリン) のようなペプチド類、カロテノイド類、カロテン類 (例えば、 α -カロテン、 β -カロテン及びリコペン) 及びそれらの誘導体類、リボン酸及びその誘導体類 (例えばジヒドロリボン酸)、アウロチオグルコース、プロピルチオウラシル及びその他のチオール類 (例えば、チオレドキシン、グルタチオン、システイン、シスチン、シスタミン並びにそれらのグリコシル、N-アセチル、メチル、エチル、プロピル、アミル、ブチル及びラウリル、パルミトイル、オレイル、 γ -リノレイル、コレステリル及びグリセリルエステル類) 及びそれらの塩類、チオジプロピオン酸ジラウリル、チオジプロピオン酸ジステアリル、チオジプロピオン酸及びそれらの誘導体類 (エステル類、エーテル類、ペプチド類、脂質類、ヌクレオチド類、ヌクレオシド類及び塩類) 及びスルホキシイミン化合物類 (例えば、ブチオニースルホキシイミン類、ホモシステイニースルホキシイミン、ブチオニースルホン類及びペンター、ヘキサ-及びヘプタチオニースルホキシイミン)、並びに更に (金属) キレート化剤 (例えば α -ヒドロキシ脂肪酸類、パルミチン酸、フィチン酸又はラクトフェリン)、 α -ヒドロキシ酸類 (例えばクエン酸、乳酸及びリンゴ酸)、フミン酸、胆汁酸、胆汁抽出物類、ビリルビン、ビリベルジン、EDTA、EGTA及びそれらの誘導体類、不飽和脂肪酸類及びそれらの誘導体類 (例えば γ -リノレン酸、リノール酸及びオレイン酸)、葉酸及びその誘導体類、ユビキノ及びユビキノール及びそれらの誘導体類、ビタミンC及び誘導体類 (例えばパルミチン酸アスコルビル、リン酸アスコルビルMg、酢酸アスコルビル)、トコフェロール類及び誘導体類 (例えば酢酸ビタミンE)、ビタミンA及び誘導体類 (パルミチン酸ビタミンA) 及び、ベンゾイン樹脂の安息香酸コニフェリル、ルチン酸及びその誘導体類、フェルラ酸及びその誘導体類、ブチルヒドロキシトルエン、ブチルヒドロキシアニソール、ノルジヒドログアヤ樹脂酸、ノルジヒドログアヤレチン酸、トリヒドロキシブチロフェノン、尿酸及びその誘導体類、マンノース及びその誘導体類、亜鉛及びその誘導体類 (例えばZnO及びZnSO₄)、セレン及びその誘導体類 (例えばセレン-メチオニン)、スチルベン類及びそれらの誘導体類 (例えば酸化スチルベン及び酸化トランススチルベン) 並びに前記のこれらの活性化化合物類の、本発明により適切な誘導体

類（塩類、エステル類、エーテル類、糖類、ヌクレオチド類、ヌクレオシド類、ペプチド類及び脂質類）からなる群から選ばれる。

【0047】本発明に関しては、油溶性の抗酸化剤類を特に好都合に使用することができる。

【0048】本発明の一つの驚くべき特性は、本発明による調製物が、皮膚内における美容的又は皮膚科学的活性化化合物類（好ましい活性化化合物類は、酸化曝露に対して皮膚を防護することができる抗酸化剤類である）のための非常に良好なビヒクルであるという点である。ここで好ましい抗酸化剤類はビタミンE及びその誘導体類並びにビタミンA及びその誘導体類である。

【0049】調製物中の抗酸化剤類（1種類以上の化合物類）の量は好ましくは、該調製物の総重量を基礎にして、0.001から30重量%、特に好ましくは0.05から20重量%、特に1-10重量%である。

【0050】ビタミンE及び／又はその誘導体類が抗酸化剤もしくは抗酸化剤類である場合には、調製物の総重量を基礎にして、0.001から10重量%の範囲からそれらの具体的な濃度を選ぶことが好都合である。

【0051】ビタミンAもしくはビタミンA誘導体類又はカロテン類もしくはそれらの誘導体類が抗酸化剤もしくは抗酸化剤類である場合には、該調製物の総重量を基礎にして、0.001から10重量%の範囲からそれらの具体的な濃度を選ぶことが好都合である。

【0052】高品質の化粧品調製物は通常、従来の補助剤類及び添加剤類なしには考えられないことは当業者にももちろん知られている。これらは例えば、コンシステンシーを与える物質類、充填剤類、香料、染料類、乳化剤類、ビタミン類又は蛋白質類のような追加的な活性化化合物類、光線防御剤類、安定化剤類、昆虫忌避剤類、アルコール、水、塩類、抗微生物、蛋白分解又は角質溶解作用をもつ物質類等、を含む。

【0053】必要な変更を加えて、対応する必要条件は、医薬用調製物の調製に適用される。

【0054】本発明による調製物は好都合には、少なくとも1種類のUVAフィルター物質及び／又は少なくとも1種類のUVBフィルター物質及び／又は少なくとも1種類の無機顔料を含んでなる。

【0055】しかし、その主要な目的が日光からの防御ではないがしかし、UV防御物質類を含んでなるような化粧品及び皮膚科学的調製物類を組み入れることはまた本発明に関しては好都合である。従って例えば、UV-A又はUV-Bフィルター物質類は通常パニングクリーム中に取り込まれる。

【0056】抗酸化剤類及び望ましい場合には、保存剤類と同様に、UV防御物質類もまた、調製物自体の分解に対する活性な防御物を表す。

【0057】本発明による調製物は更に、好都合には、UVB域のUV光線を吸収する物質類を含んでなること

ができ、そのフィルター物質の総量は、全領域の紫外線から皮膚を防護する化粧品調製物を提供するためには、該調製物の総重量を基礎にして、0.1重量%から30重量%、好ましくは0.5重量%から10重量%、特に1.0から6.0重量%である。それらはまた、毛髪又は皮膚のための日よけ剤類として使用することができる。

【0058】本発明によるエマルジョンが、UVBフィルター物質類を含んでなる場合は、これらは油溶性でも水溶性でもよい。本発明により好都合な油溶性UVBフィルター類は、例えば：

- － 3-ベンジリデンカンファー誘導体類、好ましくは3-(4-メチルベンジリデン)カンファー及び3-ベンジリデンカンファー；

- － 4-アミノ安息香酸誘導体類、好ましくは4-(ジメチルアミノ)安息香酸2-エチルヘキシル及び4-(ジメチルアミノ)安息香酸アミル；

- － ケイ皮酸のエステル類、好ましくは4-メトキシケイ皮酸2-エチルヘキシル及び4-メトキシケイ皮酸イソペンチル；

- － サリチル酸のエステル類、好ましくはサリチル酸2-エチルヘキシル、サリチル酸4-イソプロピルベンジル及びサリチル酸ホモメンチル；

- － ベンゾフェノンの誘導体類、好ましくは2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシ-4'-メチルベンゾフェノン及び2,2'-ジヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン；

- － ベンザルマロン酸のエステル類、好ましくは4-メトキシベンザルマロン酸ジ(2-エチルヘキシル)；

- － 2,4,6-トリアニリノ(p-カルボ-2'-エチル-1'-ヘキシルオキシ)-1,3,5-トリアジンである。

【0059】好都合な水溶性UVBフィルター類は、例えば：

- － そのナトリウム、カリウム又はそのトリエタノールアンモニウム塩のような、2-フェニルベンズイミダゾール-5-スルホン酸の塩類、並びに2-フェニルベンズイミダゾール-5-スルホン酸自体；

- － ベンゾフェノン類のスルホン酸誘導体類、好ましくは2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸及びその塩類；

- － 例えば、4-(2-オキシ-3-ボルニリデンメチル)-ベンゼンスルホン酸、2-メチル-5-(2-オキシ-3-ボルニリデンメチル)ベンゼンスルホン酸及びそれらの塩類、のような、3-ベンジリデンカンファーのスルホン酸誘導体類である。

【0060】本発明による、活性化化合物の組み合わせ物と組み合わせて使用することができる、前記のUVBフィルター類の表はもちろん、それらに限定することは意図されない。

【0061】本発明による脂質分散物類を、今日まで化粧品調製物中に通常含有されてきたUVAフィルター類と共に調製することもまた好都合の可能性がある。これらの物質類は、好ましくはジベンゾイルメタンの誘導体類、特に1-(4'-tert-ブチルフェニル)-3-(4'-メトキシフェニル)プロパン-1,3-ジオン及び1-フェニル-3-(4'-イソプロピルフェニル)プロパン-1,3-ジオンである。

【0062】本発明による化粧品及び皮膚科学的調製物はまた、UV光線類からの皮膚の防護のために化粧品中に通常使用される無機顔料類を含んでなることができる。これらはチタン、亜鉛、鉄、ジルコニウム、シリコン、マンガ、アルミニウム及びセリウム及びそれらの混合物の酸化物、並びにそれらのなかで該酸化物が活性物質であるような誘導体類、である。特に好ましい顔料は二酸化チタンを基礎にしたものである。

【0063】本発明による化粧品及び皮膚科学的調製物は更に、これらの調製物中に通常使用されているような化粧品補助剤類、例えば保存剤類、殺バクテリア剤類、殺ウイルス剤類、香料類、発泡抑制物質類、染料類、着色作用をもつ顔料類、増粘剤類、界面活性物質類、乳化剤類、柔軟化、加湿及び/又は保湿物質類、抗炎症物質類、医薬品類、脂肪類、油類、ワックス類又は、アルコール類、ポリオール類、ポリマー類、気泡安定化剤類、

電解質類又は有機溶媒類のような、化粧品又は皮膚科学的調製物のその他の通常の成分類、を含んでなることができる。

【0064】使用することができるその他の成分は：

- 脂肪類、ワックス類及びその他の天然に存在する及び合成の脂肪物質類、好ましくは低C数のアルコール類との、例えばイソプロパノール、プロピレングリコール又はグリセロール、との脂肪酸類のエステル類、あるいは低C数のアルカン酸類との、又は脂肪酸類との脂肪酸アルコール類のエステル類；
- 低C数のアルコール類、ジオール類又はポリオール類及びまたそれらのエーテル類、好ましくはエタノール、イソプロパノール、プロピレングリコール、グリセロール、エチレングリコール、エチレングリコールモノエチルもしくはモノブチルエーテル、プロピレングリコールモノメチル、モノエチルもしくはモノブチルエーテル、ジエチレングリコールモノメチルもしくはモノエチルエーテル及び類似の物質である。

【0065】

【実施例】下記の実施例は本発明を具体的に示すことを意図している。

【0066】（実施例1-6）：高脂肪含量を有する極性の口唇用ゲル

口唇ゲル1

トリベヘニン	4.0
ステアリン酸C ₁₉₋₃₉ アルキルヒドロキシステアロイル	25.0
カプリル酸/カプリン酸トリグリセリド	10.0
2-オクチルドデカノール	10.0
ヒマシ油	34.0
カプリル酸/カプリン酸/イソステアリン酸/ステアリン酸/水素化アジピン酸ビスグリセリル	5.0
パルミチン酸2-エチルヘキシル	12.0

口唇ゲル2

ベヘニルアルコール	3.5
ステアリン酸C ₁₉₋₃₉ アルキルヒドロキシステアロイル	20.0
カプリル酸/カプリン酸トリグリセリド	15.0
2-オクチルドデカノール	14.0
ヒマシ油	30.0
シアバター	10.0
アボカジン(Avocadin)	1.0
蜜蝋	1.5

口唇ゲル3

トリベヘニン	2.0
C ₁₈₋₃₆ ワックス酸グリセリルエステル	2.0
ステアリン酸C ₁₉₋₃₉ アルキルヒドロキシステアロイル	15.0
ジョジョバ油(Jojoba oil)	5.0
ジカプリリルエーテル	10.0
ヒマシ油	40.0
カプリル酸/カプリン酸/イソステアリン酸/ステアリン酸/	

水素化アジピン酸ビスジグリセリル	8.0
ミリスチン酸ミルスチル	3.0
オレイン酸デシル	5.0
イソノナン酸セテアリル	5.0
パラフィン油	5.0
<u>口唇ゲル4</u>	
トリベヘニン	2.0
ベヘニルアルコール	1.5
ステアリン酸C ₁₅₋₂₉ アルキルヒドロキシステアロイル	20.0
カプリル酸/カプリン酸トリグリセリド	20.0
2-オクチルドデカノール	10.0
ヒマシ油	20.0
カプリル酸/カプリン酸/イソステアリン酸/ステアリン酸/	
水素化アジピン酸ビスジグリセリル	5.0
シアバター	5.0
セトステアリルアルコール	1.5
マカダミアナッツ油	5.0
グリセロール	5.0
<u>口唇ゲル5</u>	
トリベヘニン	1.5
C ₁₈₋₃₆ ワックス酸グリセリルエステル	1.0
ベヘニルアルコール	1.5
ステアリン酸C ₂₉₋₄₉ アルキルヒドロキシステアロイル	12.0
カプリル酸/カプリン酸トリグリセリド	20.0
オクタン酸セテアリル/ミリスチン酸イソプロピル	10.0
ヒマシ油	30.0
メトキシケイ皮酸オクチル	2.0
シアバター	4.75
羊毛ワックスアルコール類	1.0
バルミチン酸セチル	1.0
蜜蝋	1.5
水	5.0
グリセロール	5.0
ジイソステアリン酸トリグリセリル	3.75
<u>口唇ゲル6</u>	
トリベヘニン	1.0
C ₁₈₋₃₆ ワックス酸グリセリルエステル	1.0
ヒマシ油	2.0
水素化ステアリン酸C ₁₉₋₃₉ アルキルヒドロキシステアロイル	18.0
カプリル酸/カプリン酸トリグリセリド	10.0
2-オクチルドデカノール	10.0
ヒマシ油	30.0
カプリル酸/カプリン酸/イソステアリン酸/ステアリン酸/	
水素化アジピン酸ビスジグリセリル	5.0
シアバター	3.0
ジカプリリルエーテル	10.0
カーボマー(Carbomer)	0.035
NaOH 4.5%濃度	0.0185
水	4.9465
グリセロール	5.0

脂肪成分を90-95℃で融解させる。別の操作で、水性相を70℃に加熱し、次いで攪拌しながら前記脂肪相

に添加する。全体を攪拌しながら冷却する。

【0067】（実施例7-9）：スティック調製物

スティック1（中程度の極性）

トリベヘニン	1.0%
ステアリン酸C ₁₉₋₃₉ アルキルヒドロキシステアロイル	1.0%
カルナバ蠟	1.3%
シアバター	1.5%
ミリスチン酸ミリスチル	9.0%
セレシン	12.0%
セトステアリルアルコール	2.5%
水素化ココナツ脂肪酸グリセリド類	5.0%
オゾケライト	6.0%
カプリル酸/カプリン酸トリグリセリド	26.7%
ヒマシ油	12.0%
ジカプリルエーテル	22.0%

スティック2（中程度の極性）

トリベヘニン	1.0%
ステアリン酸C ₁₉₋₃₉ アルキルヒドロキシステアロイル	0.5%
カルナバ蠟	1.6%
C ₁₈₋₃₆ ワックス酸グリセリルエステル	1.0%
ミリスチン酸ミリスチル	10.0%
セレシン	22.4%
セトステアリルアルコール	2.5%
カプリル酸/カプリン酸トリグリセリド	22.0%
ヒマシ油	12.0%
2-オクチルドデカノール	27.0%

スティック3（極性）

トリベヘニン	2.5%
ステアリン酸C ₁₉₋₃₉ アルキルヒドロキシステアロイル	2.5%
カルナバ蠟	2.5%
シアバター	2.5%
ジョジョバ蠟、水素化	4.5%
カンデリラ蠟	6.0%
カプリル酸/カプリン酸/イソステアリン酸/ステアリン酸/ 水素化アジピン酸ビスジグリセリル	8.0%
水素化ココナツ脂肪酸グリセリド類	3.0%
蜜蠟	5.0%
カプリル酸/カプリン酸トリグリセリド	10.0%
ヒマシ油	13.5%
ジカプリルエーテル	20.0%
ジョジョバ油	4.0%
アボカド油	4.0%
マカダミアナッツ油	4.0%
スクアラン(Squalan)	4.0%
マンゴの芯の脂肪	2.0%
グルタミン酸コレステリル/ベヘニル/オクチルドデシル ラウロイル	2.0%

脂肪成分を90-95℃で融解する。全体を攪拌しながら70℃に冷却し、次いで注入する。

【0068】（実施例10-14）：W/Oエマルション

エマルション1（極性脂肪相）

トリベヘニン	1. 0%
ステアリン酸C ₁₉₋₃₉ アルキルヒドロキシステアロイル	4. 0%
ジイソステアリン酸トリグリセリル	3. 0%
2-ポリヒドロキシステアリン酸ポリグリセリル	3. 0%
ステアリン酸イソプロピル	4. 0%
ポリイソブテン	2. 0%
カプリル酸/カプリン酸トリグリセリド	3. 5%
マカダミアナッツ油	1. 5%
ココア酸オクチル	5. 6%
フェノキシエタノール	0. 4%
メチルパラベン	0. 18%
プロピルパラベン	0. 02%
グリセロール	3. 0%
MgSO ₄	0. 7%
水	68. 1%
<u>エマルジョン2 (中程度の極性)</u>	
トリベヘニン	1. 5%
ステアリン酸C ₁₉₋₃₉ アルキルヒドロキシステアロイル	2. 0%
ジイソステアリン酸トリグリセリル	2. 4%
クエン酸ジコイルペンタエリスリチルジステアリル	1. 2%
スクアラン	10. 0%
オクタン酸セテアリル/ミリスチン酸イソロピル	5. 0%
イソノナン酸セテアリル	5. 0%
フェノキシエタノール	0. 4%
メチルパラベン	0. 18%
プロピルパラベン	0. 02%
グリセロール	3. 0%
MgSO ₄	0. 7%
水	68. 7%
<u>エマルジョン3 (中程度の極性)</u>	
トリベヘニン	0. 75%
ステアリン酸C ₁₉₋₃₉ アルキルヒドロキシステアロイル	3. 0%
ジイソステアリン酸トリグリセリル	2. 4%
クエン酸ジコイルペンタエリスリチルジステアリル	1. 2%
スクアラン	12. 0%
オレイン酸デシル	5. 0%
シアバター	6. 5%
フェノキシエタノール	0. 4%
メチルパラベン	0. 18%
プロピルパラベン	0. 02%
グリセロール	3. 0%
MgSO ₄	0. 7%
水	64. 85%
<u>エマルジョン4 (中程度の極性)</u>	
トリベヘニン	0. 5%
ステアリン酸C ₁₉₋₃₉ アルキルヒドロキシステアロイル	4. 0%
グリセリルソルビタン脂肪酸エステル	3. 0%
イソステアリン酸グリセリル	2. 0%
ポリデセン	10. 0%
ココア酸オクチル	5. 5%

イソノナン酸セテアリル	3. 5%
フェノキシエタノール	0. 4%
メチルパラベン	0. 18%
プロピルパラベン	0. 02%
グリセロール	3. 0%
MgSO ₄	0. 7%
水	67. 2%

脂肪相を、固体成分が融解するまで85℃に加熱する。
水性相を別に75℃に加熱し、攪拌しながら該脂肪相に
添加する。該エマルジョンを攪拌しながら35℃に冷却

し、次いでホモジナイズする。

【0069】

(実施例14)：防寒用クリーム

トリベヘニン	3. 5%
ステアリン酸C ₁₉₋₃₉ アルキルヒドロキシステアロイル	20. 0%
カプリル酸/カプリン酸/イソステアリン酸/ステアリン酸/	
水素化アジピン酸ビスグリセリル	3. 5%
カプリル酸/カプリン酸トリグリセリド	8. 0%
2-オクチルドデカノール	8. 0%
ジカプリリルエーテル	6. 0%
パルミチン酸2-エチルヘキシル	6. 0%
ヒマシ油	32. 0%
アボカジン	2. 5%
ビサボロール(Bisabolol)	0. 5%
酸化亜鉛	5. 0%
タルク	5. 0%

(実施例15)：幼児の傷用クリーム

トリベヘニン	3. 0%
ステアリン酸C ₁₉₋₃₉ アルキルヒドロキシステアロイル	18. 5%
羊毛ワックスアルコール類	1. 0%
ラノリン酸グリセリル	2. 0%
シアバター	5. 0%
カプリル酸/カプリン酸トリグリセリド	10. 0%
2-オクチルドデカノール	10. 0%
ヒマシ油	23. 5%
ビサボロール(Bisabolol)	1. 0%
二酸化チタン	3. 0%
酸化亜鉛	5. 0%
カオリン	13. 0%
タルク	5. 0%

脂肪成分を90-95℃で融解し、次いで顔料類を攪拌
混合シタラックス(Turrax)により分散させる。

【0070】本発明の特徴と態様を以下に示す。

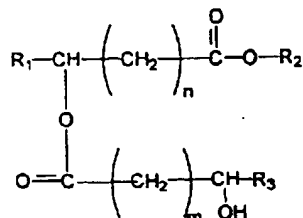
【0071】1. 本質的に飽和炭化水素類を含有せず
そして(a)18-36個の炭素原子をもつ、分枝及び
/又は非分枝の一塩基性脂肪酸類の、少なくとも1種類
のグリセロールモノー、ジー及び/又はトリカルボン酸
エステル(=モノー、ジー及び/又はトリグリセリド
類)並びに少なくとも1種類の、ヒドロキシカルボン酸
と、15-49個の炭素原子類をもつ、分枝又は非分枝
飽和アルコールとのエステルを含んでなる脂質相並び
に、(d)更に、適切な場合には水、更に脂質類、乳化

剤類及び通常のその他の活性化化合物類、補助剤類及び/
又は添加剤類を含んでなる化粧品調製物。

【0072】2. 口唇の手入れ用調製物としての、本
質的に飽和炭化水素類を含有せずそして(a)18-3
6個の炭素原子をもつ、分枝及び/又は非分枝の一塩基
性脂肪酸の、少なくとも1種類のグリセロールモノー、
ジー及び/又はトリカルボン酸エステル(=モノー、ジ
ー及び/又はトリグリセリド類)並びに少なくとも1種
類の、下記の構造式

【0073】

【化5】



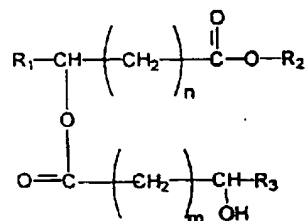
【0074】式中 R_1 及び R_3 は互いに独立して、3-30個の炭素原子をもつ分枝もしくは非分枝の飽和炭化水素基であり、そして R_2 は5-50個の炭素原子をもつ分枝もしくは非分枝の飽和炭化水素基であり、そして n 及び m は互いに独立して5から25の値を採るをもつ物質類からなる群から選ばれるエステルを含んでなる脂質相並びに、(d)更に、適切な場合には更に脂質類、水、乳化剤類及び通常のその他の活性化合物類、補助剤類及び／又は添加剤類を含んでなる化粧品調製物の使用。

【0075】3. 前記のモノー、ジー及び／又はトリグリセリドもしくはトリグリセリド類がそれぞれ前記調製物の総重量を基礎にして、2.5-5重量%の含量で存在することを特徴とする、第1項に記載の調製物類又は第2項に記載の使用。

【0076】4. 下記の構造

【0077】

【化6】



【0078】をもつ物質類の群から選ばれるエステルもしくはエステル類が、それぞれ該調製物の総重量を基礎にして、15-25重量%の含量で存在することを特徴とする、第1項に記載の調製物又は第2項に記載の使用。

【0079】5. 前記脂質相が、それぞれ該調製物の総重量を基礎にして、10-90重量%、好ましくは50-70重量%までの流体脂質類を、0.5-90重量%、好ましくは5-30重量%までの半固体脂質類を、そして0.5-50重量%、好ましくは25-40重量%までの固体脂質類を含むことを特徴とする、第1項に記載の調製物又は第2項に記載の使用。

【0080】6. 前記含水量が、それぞれ該調製物の総重量を基礎にして、0.1-15重量%、好ましくは3-5重量%であることを特徴とする、第1項に記載の調製物又は第2項に記載の使用。

フロントページの続き

(72)発明者 アンネーゾビー・デュツセルト
ドイツ・デー20255ハンブルク・アイデ
ルシュテッターベーク 2

(72)発明者 アルタ・アウル
ドイツ・デー21244ハンブルク・レーム
クールスカンプ28